入院患者さんのための「愛の図書室」

服 部 葉 子*

名古屋国際婦人クラブ

名古屋国際婦人クラブ

NAGOYA INTERNATIONAL LADIES' CLUB
(以下 ILC)

太平洋戦争後わが国では新憲法が制定され、婦人にも参政権が与えられましたが、民主主義や男女同権等、婦人の自覚はすぐには進みませんでした。

1953 年 8 月アメリカ国務省の「教育交流計画」により元婦人有権者同盟会長 A. L. ストラウス女史が来日、名古屋でも婦人団体の幹部を集めて講演し「婦人の地位向上・社会参加」を啓蒙されました。

これを機に会を創立し、若干の変遷を経て会の目的を「婦人の進歩向上」「各国婦人間の理解・親善」「社会奉仕」とし、政治・宗教にかかわらず、人道的立場で活動することを決め、会名を ILC と称しています。

会員数 1996 年 4 月現在、日本人 81 名、外国人 21 名。

「愛の図書室」LIBRARY OF LOVE

1962 年、ILC の創立 10 周年記念事業として創設しました。アメリカの首席領事夫人の E. ダーさんの「アメリカの病院には必ず患者さん用の図書室があります。名古屋でもやってみてはどうで

1962 年、名古屋市立大学病院「愛の図書室」開設。
中央 上田文男院長と E. ダー夫人

すか」との提唱がきっかけでした。早速名古屋市立大学病院に趣旨を申し入れますと、院長上田文男先生はすぐに図書室の意義を理解して下さいましたが、「本を寄付するだけでは困る、管理運営・貸し出し奉仕までしてもらえるならば」と条件付きで受け入れていただきました。

最初は狭い部屋に蔵書は会員や市内の婦人団体に依頼して集めた古本を含めて 2,000 冊足らず、奉仕する会員も十数人とささやかなスタートでしたが、患者さんの反響は大きく開室する日はいつも盛況でした。

1966 年、現在の新しい市大病院が建設された時には、最上階に広くて明るい部屋が提供され、書棚や蔵書を次第に増やすことができました、奉仕する会員も増えて軌道に乗りました。以来毎週月・金曜日の 2 回午前 10 時から 11 時 30 分まで、国の祝日とお盆の日、年末・年始を除いて一

*Yoko HATTORI : 〒464 名古屋市千種区今池 3-16-21.

(1996 年 7 月 3 日 受理)

1976 年、国立名古屋病院「愛の図書室」開設。

度も休むことなく、今日まで奉仕を続けております。

1966 年には、朝日新聞社から「朝日・明るい社会賞」を授与され、表彰状と賞金 10 万円が贈られました。

1974 年、病院図書館研究会の菊池佑氏が実地に調査に来られ、その報告書に「愛の図書室は明るくて活気がある」「蔵書が豊富で新鮮」「閉ざされた入院患者の心に外から開放的な雰囲気を持ち込んでいる」「経費を奉仕者が自分の手で作っている」等、「わが国の患者用図書室としては唯一のものである」と評価されました。

名市大病院のほか、市内の第一・第二赤十字病院と国立名古屋病院には「愛の図書費」として現金をお贈りしていましたが、会員数が増え奉仕の組織も充実してきましたので、1976 年に国立名古屋病院に、さらに 1979 年に第二赤十字病院に「愛の図書室」を開設し、現在、貸し出し奉仕をしている図書室 3 カ所を運営しております。

その運営は、母体である ILC の中に、いくつかある委員会活動の一つ、「愛の図書奉仕委員会」で受け持っております。正 1 名・副 2 名の委員長

が、それぞれ 3 病院の責任者となり、委員会は年数回開かれて報告・提案・反省等が討議され、すべて委員全員の合意により決定されます。

本の選択・購入は責任者にまかされております。新聞のベストセラーの欄やブックレビューを気をつけて読んでおき、本屋さんの店頭でも話題になっている本を調べます。よく読まれるのは軽い読み物や漫画、テレビドラマの原作、趣味に関する物、推理小説等で、患者さんの希望はできる限りかなえたいと思いますが、中には無理な注文もあってお断りすることもあります。

本の分類・整理は、小説、推理小説、随筆、実用書、旅、美術、辞書、雑誌、子供用漫画・読み物等、大まかなジャンルに分けて色別テープを張り、それぞれの書棚に並べます。あまりむづかしいことは考えず家庭の本箱の延長のつもりで、患者さん自身で希望の本を探し選んでもらうようにしています。

時には「これこれの本はありませんか」と尋ねられ「ありますよ」と答えて一緒に探し、見つけたときは患者さんだけでなく私たちもうれしくなります。また子供さんが漫画ばかり選ばれるときは「この本もおもしろいから一度読んでみてね」と子供や孫を育てた経験から年齢に合った読み物の本をさりげなく勧めることもあります。このように触れ合うことも大切と考え書棚の整理をしながら、できるだけ患者さんの中にいて声をかけるようにしています。

貸し出しの方法は、名刺大の簡単なカードを用意して患者さんの名前と病室番号を記入してもらい、裏面に貸し出し日付け印を押します。来室のつど借りる本、返す本に添えて出していただくようお願いしてあります。貸し出しノートには日付けと、カードを見て名前と室番号、借りられる本のタイトルを書きます。返却されたら一冊ずつ対照して赤鉛筆で消し本は消毒庫に入れます。消毒は殺菌灯によるもので、どれ程の効果があるかは

表 1.

病 院 名 ベ ッ ド 数	愛の図書室開設日 蔵書数 (1996. 4)	年間利用者数／冊数 年度 (開室日数)		
		1993 年 (98 日)	1994 年 (94 日)	1995 年 (94 日)
名古屋市立大学病院 808 床	1962 年 10 月 8,015 冊	1,789 人 10,416 冊	1,741 人 11,251 冊	1,440 人 8,011 冊
国 立 名 古 屋 病 院 831 床	1976 年 11 月 5,110 冊	2,058 人 9,902 冊	1,758 人 9,410 冊	1,933 人 9,599 冊
名古屋第二赤十字病院 835 床	1979 年 11 月 7,566 冊	1,261 人 7,311 冊	1,129 人 8,069 冊	924 人 5,535 冊

わかりません。初めのうち定期的に部屋を密閉して消毒してもらっていましたが、「伝染の恐れのある患者さんは図書室に出さない」の病院との約束でこのような簡略な方法になりました。

稀には戻ってこない本もあって病棟へ調べに行くこともあります。退院されたり不明の場合が多いので、あまり追及はせず必要ならばまた買えばよいと思っています。これらの管理運営は3病院統一して全く同じ方法で行っています。

奉仕のお当番は、最初の頃の古い病院のときは戦前からの建て物でしたし、病院自体一般になじみの薄い時代でしたから「私は体が弱から病気がうつるとこわい」とか敬遠する会員が多くて、一人が1カ月に2回も3回も奉仕しました。現在は全員参加となりましたので3名で1チームを作り、各病院8チーム、3病院合計24チームで1カ月1回のお当番となっています。

蔵書数は常に一定しておりません。毎月新しく購入すると共に古い本は廃棄しますし、紛失することもあります。よく読まれる本、例えば「サザエさん」は全巻揃いを何度も買いましたし、特に旅に関する本、雑誌等は鮮度が落ちないように注意しています。本のほか、カセットテープとレコーダーも備えております。

図書室の利用者数、利用冊数は減る傾向をたどっております。蔵書に魅力がないのかと反省もしていますが、来室される方が以前より少ないので

PRにはいろいろ工夫をし、チラシを配ったり、病院にお願いして所在を示す矢印を付けてもらったり、車椅子の方が上がれない所には呼び鈴を付けてお迎えに行ったりと努力をしています。一方で活字離れが進み、病床ごとにテレビが置かれ、子供たちはファミコンゲームで遊ぶという時代の背景と、医学の進歩によるのでしょうか、入院日数が短縮されてきたことも影響しているのかもしれませんが。しかし映像文化を受け流すだけでなく、読書は想像力を養い幅広い人生の糧になると思いますから、時間的余裕のある入院中にこそ一冊でも本を読んでいただけたらと、より多くの患者さんのご利用を願っております。

私たちは特に子供の患者さんに関心を持ち、小児病棟へ七夕祭には笹飾り、クリスマスにはツリー飾りとプレゼントを贈り、家庭を離れて闘病している子供さんたちに季節感と健康な生活への意欲を持たせるよう励ましております。

図書室の経費(本代・書棚・消毒庫・机・椅子・ロッカー・事務用品・プレゼント等)はチャリティバザーの収益金で賄ってきました。当時バザーはまだ珍しく、第1回は1962年これもE.ダーさんの指導でアメリカ領事官邸を開放して行われました。以後毎年1回、会員の努力と各方面のご協力により相当の成果を上げ、会の目的の一つ「社会奉仕」の事業を次第に拡充することができました。その中でも一番優先的に力を入れているのが

「愛の図書室」です。年間予算は今年は100万円ですが200万円、300万円を計上した年もありました。

貸し出し奉仕3病院以外の主な「愛の図書」事業を列記します。

名古屋第一赤十字病院

1963年より毎年「愛の図書費」10万円と会員持ち寄りの書籍・雑誌，花を持参して病棟慰問。

国立東名古屋病院

1982年デイケア棟創設時に「愛の図書コーナー」に図書を寄付，以後毎月希望の本を届けている。

名古屋市総合リハビリテーションセンター

1989年創立時に「愛の図書コーナー」のため現金100万円を寄付。

フィリッピンマニラ近郊ピースビレッジ， マリアンスクール内「愛の図書室」

1993年より毎年\$1,000の5年間寄付を約束，実施中。

おわりに

私たちは時々，退院される患者さんから感謝のお手紙をいただくことがあります。「図書室のおかげで入院生活が潤いました。」「入院中により本に出会えて生きる希望と勇気がわきました。」等の言葉が書かれています。つい最近のお手紙には「病院で本を貸していただけるなんて夢にも思いませんでした。月・金曜日がほんとに楽しみでした。」とありました。

私たちは日常生活に組み込まれた月に1回のこの奉仕活動を，別に負担にも思わず，大したことをしているという意識もなく，30年以上も続けてきました。これからも気負わず淡々と，いつまでも続けていけるように，若い会員たちに期待していますし，どこの病院にも図書室があったら，きっと患者さんたちは喜ばれるだろうと思います。